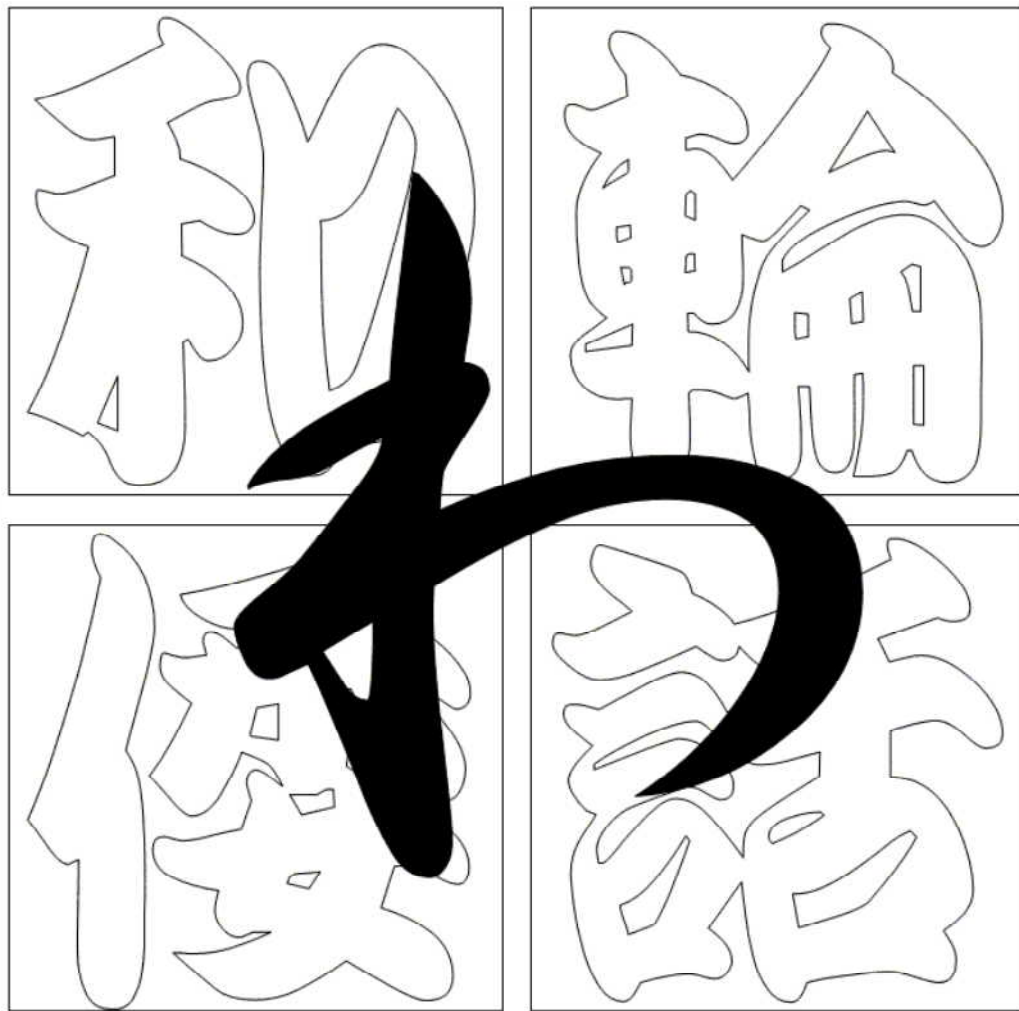


金沢区生涯学習“わ”の会

会 報 第 3 号

(2002年11月)



## “わ”の会の歩み 4年間の活動を振り返って

宮原宏至

金沢区生涯学習“わ”の会の平成14年度講座も、みなさまのご協力で本日の第7回講座で全部終了となりました。ありがとうございました。

“わ”の会は平成11年に金沢区役所のご指導のもとにスタートし“わが街かなざわの歴史を訪ねて”のテーマで地元密着の歴史勉強を重ね、4年目よりは自立した生涯学習活動として、新しい展開を図ってまいりました。

最初の3年間は区役所の援助を頂いていたこともあり、入会希望者が定員オーバーのため、毎年抽選となり、4年間通して会員となった方は殆どおられませんでしたので、ここであらためて4年間の講座のテーマを整理してみました。

講座は、1年に7回、内2回は原則として探訪となっております。4年間で歴史上の政治・経済・文化等30近いテーマに取り組んでおりますが、まだまだテーマは沢山あると思います。勿論、同じようなテーマでも切口を変えれば、新しい発見もあるはずで、平成15年度のテーマの素案は先日ご案内いたしました。さらに皆様からの積極的なご提案をお待ちしております。

### 平成11年度

月	テ - マ	講 師
5	円海山から連なる歴史的つながり(かねさわの地名)	篠田 徹 氏
6	鎌倉から江戸までのかなざわ(政治・文化・人々の暮らし)	西岡 芳文氏
7	史跡散歩(称名寺・県立金沢文庫周辺)	高橋 秀栄氏
8	横浜開港資料館・県立歴史博物館見学	探 訪
9	富岡・並木・小柴周辺探訪	探 訪
10	かなざわの今 明日への足掛かりをさがして	村橋 克彦氏
11	11年度反省会・次年度への取組み検討	

### 平成12年度

月	テ - マ	講 師
5	仏像の知識	内海 恒雄氏
6	六浦の古道探訪(塩の道の寺社・史跡を歩こう)	探 訪
7	かなざわの埋立ての歴史 その1(江戸時代を中心に)	永井 晋 氏
8	かなざわの埋立ての歴史 その2(横浜6大プロジェクトの一環として)	田村 明 氏
9	文学から見たかなざわ	玉木 恭子氏
10	中世かなざわの庶民の風俗と生活	永井 晋 氏
11	12年度反省会・次年度への取組み検討	

・オプション 杉田・富岡文学散歩(講師 玉木 恭子氏)

平成13年度

月	テ - マ	講 師
5	古代の金沢（縄文から古墳時代のかなざわ人のくらし）	長谷川 厚氏
6	釜利谷の寺社巡りー白山道を歩くー	探 訪
7	龍華寺の歴史と金沢	和田 大雅氏
8	映像で探る昔日の金沢	楠山 永雄氏
9	瀬戸神社をめぐる金沢の歴史	佐野 和史氏
10	金沢八景を歩く	探 訪
11	北条氏と金沢文庫（講義・講師解説による特別展見学）	永井 晋 氏

平成14年度

月	テ - マ	講 師
5	野口英世と金沢	小暮葉満子氏
6	野口記念館と富岡の寺社巡り	探 訪
7	称名寺の歴史と金沢	須方 隆證氏
8	茅葺屋根のひとりごと	木村 隆男氏
9	金沢の名刹 金龍院とその歴史（金沢文庫特別展見学）	西岡 芳文氏
10	横浜市歴史博物館と大塚・歳勝土遺跡見学	探 訪
11	変わりゆく金沢の自然	村上 司郎氏

第3・4・5回講座アンケート結果より

第3回 称名寺の歴史と金沢（講師 須方 隆證氏）

会員出席者 68名 出席率 80%

主な感想

- ・ 普段拝観出来ないご本尊を拝観出来た。住職様の貴重な、判りやすい、有り難い講話でした。
- ・ 施餓鬼法要・盆・法要などの仏事のお話が興味深かった。
- ・ 浄土式庭園のお話を理解できた。

第4回 茅葺屋根のひとりごと（講師 木村 隆男氏）

会員出席者 64名 出席率 75%

主な感想

- ・ 円通寺・東照宮の由来と木村家の関係がよく解った。
- ・ 木村家の家系と徳川家康の関係を知った。
- ・ 茅葺屋根の歴史の深さに驚く。
- ・ 「土に心をすいこまれた」と言う悠心窯の心根に感激。
- ・ 人間性・人柄に感激、人生観に共鳴し、心に響くお話でした。

第5回 金沢の名刹 金龍院とその歴史 (講師 西岡 芳文氏)

会員出席者 62名 出席率 73%

主な感想

- ・中世の寺院が貿易事業に関係をもっていたことに驚いた。
- ・嶺松寺・能仁寺・金龍院との関係が理解できた。
- ・歴史が資料の形で後世に残る大切さと大変さを感じた。
- ・残存資料が乏しい中、パズルを解くような苦労とその後の喜び。
- ・金沢八景近辺の環境の変貌に驚く。

分科会近況報告

「古文書を読む会」 清水重雄

古文書と道中日記

私達の分科会は只今自主学習スタイルで活動しております。  
テーマは近世の古文書(江戸時代)の読み下しです。

まず取り上げたのが、当かなざわに在住された鹿島某氏の安政五年(1858)「参宮道中日記」の一日一日を教材として、初心者らしく謙虚にポツリポツリと読み下し、それなりに、往時の旅情を味わっております。

会の活動をするうちに、メンバーの要望により日記に記された旧跡を散策方々たずねなくなり、10月23日には平塚～大磯までの東海道を歩きました。

往時のひとは、道々何を感じ楽しみ、目に映えるものそれぞれにどんな感慨をもって眺めたことでしょうか。そんな足跡を訪ねながらの散歩でした。

大磯の鳴立庵では西行法師の御歌

つれもなく なり行く人の ことのはぞ

秋よりさきの もみじなりけり

また、あすかいの宮様の御歌

あわれさは 秋ならねども しぐれけり

鳴立つ沢の むかしたずねて

等などにつき彼らの感動を我々も今様に味わってまいりました。

その時代の風俗習慣を再吟味・再発見もさせてくれ、楽しさを与えてくれるのも「古文書を読む会」の趣旨だと思っております。

今後とも会員の皆様と会を継続し更に往時の生活習慣様式等も覗いてみたいと思っております。これから古文書を勉強したい方もぜひおいで下さい。

「寺社をめぐる会」 関 祥

### 老いじたく、心に刻む寺社めぐり

人生 50 年といわれていた時代は昔の話で、今や人生 80 年の時代になりました。孝行したい時には親はなし、墓に布団は着せられず...の時代から親不幸な子供達が孝行したくなくても親が居ると陰口をたたく時代になったわけです。

永い間運転席に在って国のため社会のため家族のために働き、最近シルバースーツに移った人々を中心に自然と歴史に恵まれた金沢を勉強しようという人達が集まりました。山登りや観劇とちがって地味ですが静かに秋景色の寺社を巡っています。

「温故知新」好きな言葉の一つです。毎月 1 回金沢の神社や古刹を訪ね秘仏を拝観、法話を聴き、山内外の静寂の中に佇んでいます。また、研究会では全員で巡拝した寺社の感想や法話などで伺った世相などを肴に次の企画を話し合いワイワイガヤガヤやっています。

月に一度や二度、心静かに自身の命の源をたどり渴いた心に母乳を貰いたいのです。

私たちの会は先生もお客さんも居ません。全員野球でやっています。女性の視点からの貴重な意見も沢山あります。とりあえず金沢 34 札所を巡り、隣の鎌倉・三浦から坂東 33 観音・四国 88 ヶ所霊場さらに空海や玄奘三蔵の功德を訪ねたいと遠くシルクロードまで夢を膨らませています。ぜひ、あなたも自然と歴史が響き合う金沢の寺社巡りに参加しませんか。

「伊能忠敬研究会」 岡本茂男

### 伊能忠敬との出会い

私の家の菩提寺は、富岡探訪でもご存じの慶珊寺である。住職は、明倫高校（現清風高校）の校長を永年勤められ先年退職されたが、これを機会に毎月一回寺で写経会を開催する事を思い立ち確か 1998 年の秋に第 1 回を開催してから今日まで丸 4 年間「心経会（しんぎょうえ）」として続けている。

会は、住職の講話の後、全員で般若心経をご本尊に向かい大きな声で唱え、それから写経に入る。

平成 12 年 12 月の会のお話の題は「伊能忠敬」だった。

忠敬が 50 歳で隠居をし、家督を息子に譲ると共に江戸に出て暦学者高橋至時に師事し、暦学を学びそれを基に日本の地図を完成させるまでのお話であった。そこで作家井上ひさし氏が「四千万歩の男」に忠敬のことを小説として出版していることを知り早速講談社文庫を買い求め読み始めた。

伊能忠敬が第一次調査で蝦夷の測量を終わり第二次測量を三浦・伊豆半島から東北地方に足を伸ばしていた。読み進むうちに杉田の梅林殺人事件があり、この富岡の地にも伊能忠敬の足跡があることが出てきた。しかも、彼の書く測量日誌に出てくる当時の名主や地頭は、現在でも良く知っている人の先祖ではないか。これには大変驚き、急に忠敬が身近の人として感じられるようになった。

ここから、彼の足跡がどこかに残っていないかと探し始めた。

しかし、二百年も前のことで、しかも大きな行事でもなかったせいか記録的なものは無くなっている。土地の歴史研究家に尋ねても伊能忠敬がこの地を踏んだことすら知らないとのこと。

彼の生き様を見るに付け、会社退職後に自分が辿っている道がなんと甘いものだという反省しきりの毎日である。

更に、文献等を探っていきたいと思っている。

## お知らせ

平成 14 年度の会計監査人として、運営委員会は内田新二氏と清水重雄氏を選任、ご両人からのご承諾を得ました。

次年度会員になりたい友人や家族の方がおられましたら、是非勧誘して運営委員までご連絡ください。

来年度講座計画の決定版は平成 15 年 2 月度の会報でご案内致します。

新しい分科会のテーマ募集。奮って応募下さい。

運営委員・会報編集委員の募集。あなたも生涯学習の企画・運営に参加してみませんか。運営委員・編集責任者へご連絡下さい。

編集後記 会報第 3 号発行できました。今回も皆様のご協力により、バラエティに富んだ内容になりました。有り難うございました。	発行日	平成 14 年 11 月 16 日
	発行 編集責任者	金沢区生涯学習“わ”の会 小 岩 克 介 236-0005 金沢区並木 3-3-2-103 TEL 045(783)0474